

すわみつえ通信

No.338 2024年11月18日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

令和6年度 鴻巣市地域共生セミナーに参加して

11月15日(金)、クレアこうのす大ホールでサブタイトル「地域共生社会の実現に向けて」と開催された地域共生セミナー(第一部・第二部構成)に参加しました。

第一部は「地域における支え合いの輪づくり」～激甚化する災害に備えて～ 講師は、陸上自衛隊大宮駐屯地・第32普通科連隊・第4中隊の自衛官が行いました。迷彩服で登壇し、大スクリーンで災害地での活動を映し説明をしました。災害派遣活動の話の後に「ホール前に自衛隊募集総合案内を用意しております。ご自由にお取りいただくとともに、募集担当の自衛官がおりますので、説明等を希望される方につきましては、お声がけいただければと思います」と結びました。

これでは自衛官募集の講演であり、本題の「地域における支え合いの輪づくり」の趣旨から離れてしまつたと残念に思いました。



赤見台地域の「地区懇談会(防犯に関する県政出前講座)」に来賓として参加

鴻巣市社会福祉協議会赤見台支部主催の地区懇談会が11月17日(日)に鴻巣市立市民センターで開催され、地域の市議会議員として、市ノ川徳宏議員・西尾綾子議員とともに参加しました。

埼玉県の防犯のまちづくり出前講座として開催され、県職員の防犯のまちづくり全般の解説に続き、警察官OBの特殊詐欺被害防止マイスターを講師に被害に遭わないためのポイントを実例をもとに学びました。



中でも、特殊詐欺は「固定電話」で「高齢女性」への被害が突出していること、防ぐ方法としては、①留守番電話にすること、②知らない番号には出ないこと、だそうです。さらに、警告メッセージを流す機能を持った電話機や装置の利用が有効とのことです。

自転車盗や住宅侵入、子どもや女性を狙う犯罪を防ぐには、地域でお互いが顔見知りとなるご近所づき合いが大変大事だということでした。

鴻巣市・並木市長へ予算要望書を提出

鴻巣市社会保障をよくする会として「社会保障拡充を求める2025年度予算要望書」を並木市長宛に提出しました。医療・介護・福祉の予算を拡充し、物価高騰で悲鳴が上がる市民を救う予算となるよう届けました。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

【俳句コーナー】

姉からの松茸ご飯に胸熱く
瑠璃子



国会の景色が変わった

総選挙を受けて11月11日に招集された特別国会では、自民・公明与党過半数割れとなる中で、文字通り「国会の景色が変わった」のを感じます。

衆院は同日の本会議で各会派の所属議員が座る議席を指定しました。慣例では中央の議長席や演壇に向かって左側から右側へ、所属議員数の多い会派が順次並びます。今回の総選挙で自民党は過半数に届かず、議長席の正面の席は第2会派の立憲民主党・無所属が占めました。

第215回国会の開会式＝参議院議場、11月14日

記者は取材をする際、本会議場の2階席を使用するため、議員のいる議場を見下ろす形になります。上から見た議場の景色は、まさに国会の勢力図そのもの。自民党の後退が目で見てわかります。

30年ぶりの少数与党内閣となり、今後、極めて不安定で流動的な政治情勢がつくられます。他方で「自民1強」は崩れ、これまでのように数の力で押しすぎる強権政治は通用しません。切実な国民要求実現の可能性が開けています。

議場の景色の変化は新たな政治の始まりを予感させます。予算委員会など常任委員会の委員長ポストが野党に配分されるなどの変化も起きています。こうした政治状況の下、行き詰った政治の中身そのものが変わることを期待します。【しんぶん赤旗 コラム「国会発」 11月14日付】

働く人の「自由時間」拡大

若い世代がいま一番欲しいもの
1位 お金
2位 時間
3位 自由

賃上げ & 時短 推進
「1日7時間、週35時間」法を提案

詳しくは、日本共産党のホームページをご覧ください



「時間がほしい」現役世代の労働者、子育て家庭、学生、高校生に切実な声が広がります。「もっと自由な時間をもつて、自分を成長させたい」は、身勝手な願いではありません。人間らしく生きるためにの当然の要求です。

コラム「あぶくま抄」 泥の紙幣 福島民報

泥のついた1万円札が忘れない。40年ほど前のドラマ「北の国から」に登場した。田中邦衛さん演じる主人公の黒板五郎が、トラックの運転手に手渡した▼中学を卒業して上京する息子を乗せてもらう謝礼だった。運転手は金策の苦労を察し、受け取ろうとはしなかった。汚れたピン札に、土と向き合い、懸命に生きる無骨な父親の愛情を見て取ったのだろう。北の大地で、貧しいながら時には衝突し合って愛を深める親子の物語。昭和の大作を代表する名場面として、ファンの心に刻まれている▼物価高もあって、懐に余裕のない若者は少なくないだろう。そんな世相を表してか、高額報酬をうたう「闇バイト」の勧誘が全国で後を絶たない。断り切れず強盗に加担する例も出ているというから、やりきれない。都会の犯行で逮捕された中には、地方出身者も。「生活費がなかった」「借金があった」…。漏れ伝わる動機のいくつかに孤独で無気力な暮らしが浮かぶ▼わが子を案じ続けるのは親の常。体を張つてお金を工面した先述の父のように。道を誤る前に、ひと声上げてほしい。懐かしい顔を思い浮かべて。目には見えない汚れのついたお金は、後悔だけを生む。【2024年11月14日付】